



坂元区 リサイクル品分別指導員  
しもむしき つぎよし  
**下無敷 次良** さん (66)

初めは戸惑ったことも、精一杯頑張れば  
人の役に立つ知識や経験になる。

坂元地区のリサイクル品分別指導員を務める下無敷次良さん、66歳。

34歳から福岡県や神奈川県でトラックの運転手として働き、3年前、退職を機に故郷の小林市へ帰ってきた。「久しぶりに帰郷したので、知人もあまりいなかった」。生活の変化に不安も大きい中で、さらに困惑したのが、ごみの捨て方。他の町とは、比べ物にならないほど、細かく分別することに驚かされた。「汚れているごみを洗って乾かすのは難しい。初めはごみを出すのがつらかった」。そんなとき、清掃工場で

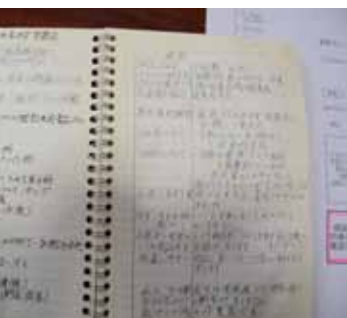
廃プラスチックの分別作業をする仕事に就くことに。

各家庭から出されたごみの袋を一つずつ開け、中身を取り出して、さらに資源ごみと燃やさないごみに仕分け作業。温風とごみの強烈なおおいに耐えながらの作業は大変だが、気づくことがあったという。「家庭で正しく分別することで、ごみを資源に変えることができる。」

その経験もあって、リサイクル品分別指導員も任せられ、住民向けのごみの分別研修の講師を務めることに。ごみの分別の大切さを伝えたいとの思いから、作

業風景や資源ごみとして圧縮された廃プラスチックごみの写真、リサイクル品のサンプルを自前で作って説明した。「人に頼られるのが嬉しいから、自分ができることは何でもやりたい。」この思いと人柄で今では、何でも話せる友人もたくさんできた。

「初めは戸惑ったことも、精一杯頑張れば人の役に立つ知識や経験になる。」誰かを思って行動することは、自分自身の心も豊かにしてくれると下無敷さんは教えてくれた。『6月はリサイクル推進月間』です。



④4月に開催した学習会。ノートには伝えたい思いが何ページにも渡ってつづられる。⑤現場の写真を撮りためたアルバム。⑥坂元地区のリサイクル回収場所には下無敷さんが作った分別事例の紙が貼られている。